

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立峰山中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>【教育目標】 自己肯定感を持ち、自分の将来を展望し、共に学ぶ生徒の育成</p> <p>【めざす生徒像】 ・意欲を持って自ら学ぶ生徒 ・思いやりと体のある生徒 ・進んで心と体を鍛える生徒</p> <p>【重点課題】(社会的自立につながる教育) ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するためのICTを活用した授業改善の推進と学力の向上 ・豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止</p>	<p>【授業改善と学力の向上】 ○コロナ禍の条件の中で、ペアやグループでの対話型学習も大切に、学びの集団作りを進めることで、意欲の向上や深い学びにつながる生徒の姿が見られた。 △大きな集団に対する不応感を示す生徒にも寄り添いながら、生徒の可能性を引き出す学びの実現を図る必要がある。 【豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止】 ○不登校出現率の減少を重点として取り組み、元年度出現率3.56%から2年度2.39%に減少させることができた。 △しかし、不登校の解消に至らない生徒もおり、社会的自立に向けた組織的な取組の展開が今後重要である。</p>	<p>【授業改善と学力の向上】 1 授業改善と学力の向上 ・新学習指導要領の全面実施を受け、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。特に生徒の「学びに向かう力」を高めるためのICT等を活用した環境整備や教師の適切な指導力の向上を図る。 ・「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究成果を学校全体で共有し、教科の指導に生かす。 ・社会的自立につながるための基礎学力の定着を生徒に徹底する。 2 豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にす言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 授業改善と学力の向上 ・新学習指導要領の全面実施を受け、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業づくりを進める。特に生徒の「学びに向かう力」を高めるためのICT等を活用した環境整備や教師の適切な指導力の向上を図る。 ・「次世代型小・中・高連携外国語教育推進事業」の研究成果を学校全体で共有し、教科の指導に生かす。 ・社会的自立につながるための基礎学力の定着を生徒に徹底する。 2 豊かな人間性の育成と不登校の解消・未然防止 ・豊かな人間性を育成するために教職員の人権感覚を高め、すべての生徒を大切にす言動の徹底に努める。 ・「つながる力」の育成を意識した教育活動を展開し、将来的孤立の未然防止に努めるとともに、すべての生徒に「居場所」をつくる取組を展開する。</p>		
<p>【教育課程】 生徒の『自ら』学ぶ力を高める環境整備や授業研究を推進する。 ・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。</p>	<p>【重点目標】 ・生徒の『自ら』学ぶ力を高める環境整備や授業研究を推進する。 ・社会的自立の基礎となる学力の定着に向けた教育活動の徹底を図る。</p>	<p>【具体的な方策】 ・一人一台のタブレット端末の活用等、ICT機器を有効に活用する環境を整備するとともに、「学びに向かう力」を高める授業研究を推進する。 ・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。</p>	<p>【具体的な方策】 ・一人一台のタブレット端末の活用等、ICT機器を有効に活用する環境を整備するとともに、「学びに向かう力」を高める授業研究を推進する。 ・基礎学力を定着させるための授業や補習・補充学習、小テストや繰り返し学習等の実践を展開する。</p>		
<p>【評価項目】 保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等に基づいて</p>	<p>【評価項目】 教育課程 学習指導</p>	<p>【評価項目】 生徒指導</p>	<p>【評価項目】 成果と課題 (自己評価)</p>		
<p>保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等に基づいて</p>	<p>教育課程 学習指導</p>	<p>生徒指導</p>	<p>成果と課題 (自己評価)</p>		

健康(体 育)・安全 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保健教育と管理の徹底を図る。 ・安全意識の向上を図り、交通事故や学校事故の減少を図る。 ・部活動の充実と体力の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確実な日々の健康観察と感染症予防対策の徹底を図る。 ・交通安全指導を繰り返し行い、交通事故防止に努める。 ・主体的に部活動に取り組むための指導を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○緊急事態宣言中は生徒昇降口での毎朝の検温を実施する等、感染症予防対策を徹底することができた。その結果、校内での感染を未然に防止することにつながった。 ○交通事故対策を年間を通じて実施する中で、大きな事故の発生は防ぐことができた。 △コロナの関係もあり、部活動を十分に実施できず残念であった。
特別支援 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある生徒への理解を深め、指導方法を研究する。 ・家庭、地域、関係機関との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級が5学級になったことを受け、より一層特別支援教育の研修を積むとともに、聴覚障害のある生徒の進学・社会的自立を見据えた教育支援を組織的に展開する。 ・個別的教育支援計画等の活用を充実させ、生徒支援を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度から支援学級主任の立場を明らかにし、企画会議にも参加する中で、組織的な運営ができたことは今後の大きな指針となった。 △個々の課題に応じた支援を積み上げることができ、伸びた生徒も多くいるが、社会的自立を見据えた時に、進学校との連携をさらに進める必要を感じている。
人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ・人権問題についての理解や認識・実践力を高める。 ・教職員の人権意識の高揚を図るための手立てを組織的に展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中の活動や取組の中で人権問題に関する部分に視点を当て、人権問題の解決につながる行動力を培う。 ・各種会議の中で教職員の言動について振り返る機会を設け、生徒がのびのびと学べる環境作りを常に大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員の言動については、機会ある毎に振り返り、常に「傾聴と対話」を意識した指導を心がけた結果、生徒達とは良好な関係が築けている。 △教職員の人権意識を更に高めるため、いろいろな人権問題について日常的に関心を持ち、その解決に向けた構想を持つ中で、指導力の向上を図りたい。
次年度に向けた 改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ① 「令和の日本型学校教育」への理解を深め、全ての子ども達の可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、ICT環境の適切な活用について、教職員の力量形成を図る。また、常に「探求」を意識した教育活動を展開し、教科横断的な視点で子ども達が、「新たな価値を生み出す」ような教育活動を展開する。 ② 人権が尊重される学校環境を整え、子ども達個々の課題に応じた指導の幅を広げるための研修を積み重ね、「傾聴と対話」を第一とした教育を推進する。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立大宮中学校]

評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ・小中の接続期(Ⅱ期)の指導方法の研究を通じた授業改善 ・「ことばの力」「思いやる心」「つながる力」を育成する授業づくり ・丹後学の研究と推進 ・家庭学習の習慣化に向けた取組の推進	前年度の成果と課題 ○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 ○授業を公開し、お互いの授業から「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりを生かすことができた。 ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組の充実を進めた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報の共有化に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、全校で取組を進めることができた。 △新規不登校生徒もおり、不登校の生徒の出現率は依然高いため、最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 質の高い学力の育成 ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善・授業づくり ・生徒指導の三機能を生かした基礎・基本の定着 生徒指導の充実、不登校の未然防止と丁寧な支援 人権教育を基盤とした指導の展開 特別支援教育の充実 ・校内体制の充実と機能化 ・個に応じた指導の充実 信頼される学校づくり ・家庭及び地域との相互連携の推進 ・外部関係機関との連携強化 大宮学園運営協議会との協働
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として		具体的方策 ・大宮学園合同授業研究及び合同研修会、校内授業研究を授業改善につなげる。 ・生徒指導の三機能を生かした授業づくりと学びの基礎力を徹底する。 ・各種アスタの分析を補充指導に生かし、基礎基本の定着と根気強く取り組む力の育成を図る。 ・授業スタイルを学園で共有し、授業づくりにつなげる。 ・全教科を通して言語活動カリキュラムを生かし、学びを深める授業づくりを行う。 ・ICTを効果的に活用するための研修を計画的に行い、授業の工夫・改善に積極的に生かす。 ・地域と連携し、自己の生き方について深く考えさせ、キャリア教育を推進する。 ・家庭学習頑張り週間を設定し、家庭学習の定着に向けて家庭との連携を強化する。	成果と課題(自己評価) ○視点を明確にした合同授業研修会を行い、授業改善を進めることができた。特に、事前研や事後の研究協議が有効で、授業改善に生かすことができた。 ○各種学力検査の結果を分析し、校内研修で交流協議を行った。授業改善や補充学習に生かすことで基礎学力の定着と向上が見受けられた。 ○「言語活用カリキュラム」の活用を図ることで、思考力や判断力、表現力の育成につながり、深い学びにつながった。 ○ICTの効果的な活用に向けた校内研修を充実し、主体的で対話的で深い学びにつながる授業づくりを進めた。 △各生徒の学習状況を把握し、支援の在り方について共通確認し、個別の指導を充実する中で基礎学力の定着を図る。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の合同生指部会 ・組織的な生徒指導体制の確立と規範意識の向上 ・学級経営の充実と好ましい人間関係の育成 ・不登校生徒の未然防止と早期対応、早期解決 ・いじめの状況把握と未然防止の徹底、人権感覚の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・学園人権・生指・特活部会での連携と情報共有に努める。 ・毎週金曜日に生徒指導部会を開催し、日々の情報共有と指導の方向性を確認し指導の一致を図る。 ・不登校生徒の状況把握に努め、未然防止、初期対応を丁寧に行う。また、毎週の教育相談部会の機能化を図り、指導・支援を組織的に行う。 ・SC・SSW、関係機関との連携を強化する。 ・いじめ防止対策委員会の機能強化を図り、いじめの根絶に向けた取組を生徒の動きづくりと関連させながら行う。 ・研修を通して教職員の人権意識の醸成を図り、人権教育をすべての指導の基盤とし、教育活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人権教育をすべての指導の基盤とし、生徒同士、生徒と教師の信頼関係の構築とともに、人権学習、人権意見発表会、人権標語等の取組を充実させた。 ○生徒指導部と教育相談部の部会の活性化と早い動き作り、情報共有化、一致した指導・支援に努めた。 ○いじめ防止対策会議の機能強化を図り、いじめ防止に向けて、生徒の動きづくりと併せて取組を進めることができた。 △新規不登校生徒もおり、不登校の生徒の出現率は依然高い。最大の学校教育課題と捉え、未然防止、早期解消に向けて取り組んでいく。また、引きこもりを出さないよう関係機関と連携していく。
健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育の充実 ・火災、津波、地震への知識の習得と避難訓練の実施 ・健康教育の充実 ・部活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を徹底し、安心安全な環境づくりを進める。 ・危機意識の醸成を図り、自らを守る行動を考えさせる。 ・薬物乱用防止教室の開催等による根絶の意識を醸成する。 ・異年齢集団で共通の興味関心や目的意識を持ち活動することの楽しさや喜びを体得させるため、部活動指導を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルスに危機感を持ち、感染防止を徹底させ、安心安全な環境づくりを進めることに努めた。 ○生徒会及び専門委員会活動の活性化を進め、学校生活の向上とともに、校則について生徒と共に見直しを行った。 ○部活動の縦のつながりを大切にして取組を進めた。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の教育資源の活用 ・各関係機関との連携と協働 ・学園運営協議会（コミュニケーション・スクール）との協働 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小中一貫教育コーディネーター及び地域コーディネーターと連携し、大宮学園学校運営協議会（学園コミュニケーション・スクール）との協働を具体的に進める。 ・各関係機関との連携を強め、情報共有を丁寧に行い、生徒及びその家庭への支援を組み立てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○京丹後警察と連携して交通安全の取組（自転車利用安全推進員）を地域に発信できた。 ○学園運営協議会との「見守り」とセットの「あいさつ」の取組をPTAや地域の方々とも連携しながら行った。 △コロナの関係で地域への公開ができなかった。
危機管理	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重の視点に立った指導の展開 ・人材育成の推進 ・コンプライアンス遵守の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度の「不適切な指導」に係る教訓を実践に生かす。 ・人権教育の研修を計画的に行い、常に共通確認した「大切にしたい指導」に立ち返り、指導や支援にあたる。 ・小さな変化への気づきを大切にし、報告、連絡、相談を徹底させる。 ・学年及び分掌主任の育成を図り、組織的に実践を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○その都度、人権を大切にしたい指導・支援になっていくかを振り返りながら危機意識を持った実践を継続できた。 △生徒への指導支援の初動を大切にするとともに、生徒やその保護者の思いに寄り添った指導支援を丁寧に行き上げていく。
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 大宮学園保幼小中一貫教育の重点である「連携・体験活動の充実」、特に「ICTも活用した精選と教職員のニーズへの対応」をキーワードとして取り組む。 2 学力分析を指導改善に生かすとともに、校内研修や学園の授業研究を通して、指導の工夫・改善に取り組む。また、ICT（タブレット）を活用したロイノートやミニライシード等の活用を効果的に進め授業の工夫改善を図る。 3 大きな学校課題である「不登校」の未然防止、改善に向けて、生徒指導及び教育相談機能の強化を継続し、組織的にあたる。 4 大宮学園運営協議会との連携、協働を一層進め、より地域とともにある学校・学園を目指す。 5 新型コロナウイルスの感染防止を徹底するとともに、生徒にとって安心で安全な学校を地域とともにつくる。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立網野中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>将来に夢と希望をもち、郷土を愛し、知・徳・体の能力を伸ばす生徒の育成を図る教育の推進</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 規範意識を醸成し、落ち着いた学校、落ち着いた授業により学力を付ける。 2 未来を展望し、自ら未来を切り拓く力を付ける。 3 思いやりをもち仲間とともに生きる、豊かな人間関係を築く力を育てる。 4 自然・人・社会とつながり、郷土を愛する心を育てる。 		<p>○授業改善に係る理論研修会や授業研究会を継続して開催し、授業改善の取組が進展した。</p> <p>○生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進及び他者とのつながりや暴力事象の未然防止や学校生活の安定を図る事ができた。</p> <p>○欠席状況等の把握による早期対応、関係期間の専門性の活用等により、不登校生徒の減少につながった。</p> <p>○家庭学習の定着に取り組んだが、家庭学習の時間確保には課題を残した。</p> <p>○特別の支援を要する生徒が増加する中、保護者との連携を深め、支援の充実を一層図る必要がある。</p>		<p>「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ指導」の展開「つながろう仲間と つなげよう心を！」を生徒の合言葉に設定し、常につながりを意識させ学校生活を充実させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 指導の重点 <ol style="list-style-type: none"> (1) 学ぶ意欲、確かな学力の育成 (2) 豊かな人間性の育成、規範意識の醸成 (3) 不登校の未然防止と解決 2 具体的方策の明確化と進行管理 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の推進 (2) 生徒指導の機能を生かした教育活動の推進 (3) 特別な支援を要する生徒への指導・支援の充実 	
評価項目	重点目標	具体的方策		成果と課題(自己評価)	
<p>教育課程 学習指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業実践力の向上を図る。 2 家庭学習時間を確保し、家庭学習の習慣化を図る。 3 教科横断的な教育活動を推進し、活用する力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動を効果的に位置づけ、「主体的に学ぶ力」や「コミュニケーション能力」等の育成を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。また、生徒一人1台のタブレットを授業改善手段として活用する実践研究を進める。 ・学園組織を活用し、系統的に家庭学習の指導を行い、習慣化を図る。 ・教科、道徳科、特別活動と関連付けた教育活動を推進し、教育効果を高める。 		<p>○学習指導要領の趣旨を踏まえ、育成する資質・能力を育むため授業改善の取組、積極的に生徒一人1台のタブレットや電子黒板を活用した授業を行った。</p> <p>○授業において、「考えを交流する場面」「自身の言葉で考えを説明する場面」を意図的に設定し、学習意欲の向上、主体的に学ぶ力の醸成に努めた。各種調査結果においても、その成果が窺える。</p> <p>△家庭学習定着の取組を行ったが、課題を残した。</p>	
<p>生徒指導</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己指導能力を育成する。 2 いじめ等の人権侵害を未然に防止するとともに、早期解決を図る。 3 不登校の未然防止と解決に向けて、取組を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の三機能をあらゆる教育活動の中で教員・生徒が意識し、教員・生徒相互の取組により自己指導能力の育成を図る。(居場所づくりと絆づくり) ・「ほめて、認めて、他者(社会)とつなぐ」を合言葉に、実態把握、つながる場の設定、適時性ある肯定的評価の取組を積み上げる。 ・個々の役割を明確にし、チームとして取組を推進する。 		<p>○生徒は他者を大切にしていして規律ある生活を送り、物事に対して前向きに取り組んでいる。</p> <p>○二者面談等の相談活動を大切にし、生徒同士の良好な関係を築き、生徒を認め励ましながら組織的に指導を展開できた。</p> <p>△不登校の解決に向けて、チームでの取組、関係機関と連携した取組を進めたが、課題を残した。</p>	

健康（体育）・安全	<p>1 体力の向上を図る。</p> <p>2 望ましい食習慣を身に付けさせる。</p> <p>3 安全に対する意識の高揚と危機回避能力の育成を図る。</p>	<p>・各種体力テスト等の結果を踏まえ、健康増進・体力向上の取組も定期的に実施する。</p> <p>・毎月の食育の日、給食週間の取組をさらに充実させる。</p> <p>・避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室等を活用し、自他の生命を守ることの大切さと危機回避能力を育成する。</p>	<p>△コロナ禍による部活動の活動制限により、十分な練習時間の確保ができなかった。</p> <p>○給食の時間の校内放送、食育の日の取組、啓発資料の掲示等により、食育を充実させることができた。</p> <p>○津波を想定した高台避難訓練、非行防止教室、薬物乱用防止教室、「ゲーム・ネット講座」を実施し、安全に対す意識の向上と危機回避能力の向上に努めた。</p>
特別支援教育	<p>1 校内支援体制の機能化を図る。</p> <p>2 個々の生徒や保護者のニーズを把握し、支援を充実させる。</p> <p>3 個々の生徒の発達特性を踏まえた指導方法の工夫改善を図る。</p>	<p>・通級指導担当、教科担当、担任、関係機関との連携を強化し、校内教育支援委員会および特別支援教育部会の一層の機能化を図る。</p> <p>・生徒及びその保護者との面談を丁寧に行い、保護者の理解を図り連携した支援の継続に努める。</p> <p>・生徒の実態を把握し、アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づき指導・支援を充実し、有効な手立てを蓄積する。</p>	<p>○校内教育支援委員会や特別支援教育部会の機能化を図り、関係機関の助言を踏まえた支援に努めた。</p> <p>○個別の指導計画、個別の教育支援計画を作成し、保護者と連携を図りながら支援の充実を努めた。</p> <p>○相談活動により学習や生活上の困難さを把握し、支援を継続することで、学校不応の未然防止にもつながった。</p>
開かれた学校づくり	<p>1 信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>2 双方向の情報交流を活かし、学校改善を推進する。</p>	<p>・保護者や地域に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努める。</p> <p>・たより、HP等を活用して情報発信に努め、積極的に学校公開を実施し、地域との連携を深める。</p> <p>・網野学園学校運営協議会、地域学校協働活動、地域連携による教育活動、PTAとの連携等の機会を通して、本校の教育に対する理解を図るとともに取組の改善を図る。</p>	<p>○保護者からの連絡・問い合わせ、生徒の学校生活上の課題等に対して、誠実・迅速・丁寧な対応に努めた。</p> <p>○コロナ禍で行事や授業の参観等の機会が減少する中、学校だより、HP、網野学園だよりを活用し、本校の教育活動や生徒の取組状況等を積極的に発信した。</p> <p>○網野学園学校運営協議会において、網野学園の取組に支援をいただいた。また、PTA本部役員会と連携・協力を図り、本校の教育活動を進めることができた。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・来年度も「ほめて、認めて、他者（社会）とつなぐ指導」という指導観のもと、「つながる仲間と つなげよう心を！」を教職員・生徒の合言葉とし、常につながりを感じさせる中で学びに向かわせるとともに、安心・安全な学校生活を維持・向上させる。</p> <p>・各分掌との連携・協働的な実践を通して、自己肯定感の醸成、学校不応の未然防止等に引き続き取り組む。</p> <p>・生徒一人1台のタブレットを活用した授業を行い、生徒がより授業内容が理解でき学習に対する意欲がもてる効果的な活用方法の研究を行う。</p>		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立丹後中学校]

学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
<p>開校8年目となる教育活動を充実させ、保護者・地域から信頼される学校経営を行う。生徒が「本気で本物に挑戦する」ための教育環境をつくり、自分の可能性を信じそれらに果敢に挑み力を伸ばすことに専念させる。</p>		<p>「本気で本物を創る」「本気で本物に挑戦する」という合言葉を学校風土として確立させ、落ち着いた学校生活に取り組みとともに、学習、部活動、様々な行事・取組で力を発揮した。仲間を思いやる校風もしつかりしたのものとなってきた。さらに、新たな時代に対応できる自己肯定感や自己有用感を高め、学校生活に積極的に取り組む力をつけさせた。</p>		<p>個々の生徒が自分にとっての本物(進むべき方向性)を定め、創造し生き生きと挑戦する学校にする ～生徒と教職員が一丸となり、「本気で本物に挑戦する」を合言葉にさらに進める～ ○生徒の個性発掘へ、様々な機会を捉えての挑戦を促す。 ○教育活動(学習・行事・取組等々)のねらいを明確にし、生徒が自覚して行動することで、本物を目指す。</p>	
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題(自己評価)		
教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの個性を認め合い、互いが高まり合うコミュニケーション能力の育成を図る。 ・GIGAスクール構想に則った一貫性・連続性のある教育課程を編成し、カリキュラム開発を行う。 ・基礎学力の定着及び活用する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教科でタブレットなどのICT機器の活用のスキルを高め、生徒指導の三機能を生かした授業改善を行い、多様な学習形態の創出に努める。 ・新しい評価観点に基づいた目標と指導と評価の一体化した取組を、ICT活用の指導を中心に進め、系統性のある一貫した授業づくりを研究する。 ・通年のドリル学習の一層の内容充実を図り、授業内容や家庭学習課題と関連付けるなど工夫し、継続的に取り組ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット活用などは、教科授業に限らず、生徒会の議案書や選挙公報などのペーパーレス化、タブレットを持ち帰っての家庭での動画視聴など、特別活動も含めて多様な学習形態を創造すること、生徒の自己有用感や共感的態度の育成などにつながった。 ○校内研修で3観点の関連や育成する資質能力をはっきりとさせ、評価材料の蓄積をICT活用と並行して授業内の活動で行い、指導と評価の一体化が進んだ。 ○通年のドリル学習の実施教科をこれまでの国教英に社理を加えて5教科とし、基礎基本問題を繰り返し、授業での学習内容定着を図れた。1・2年の少人数数学級授業に加えて、3年英語も習熟度別少人数授業やIT指導を行い、個に応じた指導の充実が図れた。 		
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間を思いやる校風の充実を図り、居場所づくりや絆づくりを推進し、不登校の未然防止に努める。 ・育てたい力を共有し、教職員の学級経営力の向上を図る。 ・安心できる仲間関係を築かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業間指導における生徒への寄り添い指導を全教職員で丁寧に行い、教育相談月間などで生徒の状況を把握すると同時に、生徒との信頼関係づくりを進める。 ・生徒の協働的な活動の場の充実を図り、「将来の社会的自立」に向けた生きた生き生きとした指導を進める。 ・いじめ防止対策委員会を機能させ、いじめ調査の結果等を基に積極的な組織的対応・指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員での業間指導を年間通して実施するとともに、2分前着席を行うことで、学習規律の安定を生み出し、生徒にとって安心安全な学校生活につながり、心の安定につながった。 ○立会演説会や立志式、合唱祭の中間交流会など、コロナ禍の制限下であっても、オンラインや録画、規模縮小などの工夫で、異年齢の意見交流や決意の交流、丹後中の伝統に触れる機会を大切にすることで、生徒の視野を広げる活動を進めた。 ○毎週のいじめ防止対策委員会・生徒指導部会・教育相談部会で、検討した週ごとの指導の方向性を全教員へ発信し、学校全体で指導にあたることのできた。学期ごとの全教員による「相談タイム」やいじめアンケート等を通して、状況把握とその指導を丁寧に行い、不登校・いじめの未然防止、早期対応につながった。 		

保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として

健康(体育)・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・体を鍛えることで、忍耐力などの心の強さも育つて、その力を学習にもつなげる。 ・安全な生活の仕方について、登下校及び学校生活の両面から指導を行う。 ・自分や周りの人の命を守る安全教育を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな価値を生み出すことへの挑戦を続け、体育系・文化系部活動かかわらず、「辛いときこそ伸びるとき」を合言葉に、豊かな心の育成を図る。 ・丹後学園一貫PTA・丹後学園運営協議会等との連携を強め、あいさつ運動(NHDD)や登下校指導を継続する。 ・生徒の安全安心な学校生活のために、コロナ感染症など対応など感染症予防など衛生面からも常に危機意識を持ち指導にあたる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍で活動の制限がある中ではあったが、各種大会や試合、発表や作品の出展等、日々の頑張りを発信する場として、限られた時間を大切に取得し、取り組む姿勢が生まれてきている。礼儀などを学ばせる場として部活動の指導にあたることを継続し、上位入賞を果たす部活や、文化面での入賞も多くあり、成果がみられた。 ○丹後学園PTA・丹後学園運営協議会等の協力を得て、あいさつ運動(NHDD)や登下校指導は計画通り実施できた。また、子育て教育講演会を行い、子どもたちの教育環境づくりや保護者同士との連携を図れた。 △喫緊かつ重要な課題として、子どもたちを取りまくSNSに関する指導があげられる。コロナ禍の関係で、各校園所で、可能な範囲で実施した。感染症予防に係る新しい学校生活様式は、定着できている。
開かれた学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域への学校公開等を計画的に行い、開校8年目の教育を理解していただく機会とする。 ・学校・家庭・地域との相互の連携を図り、生徒の様子や学園・学校の教育活動を発信していく。 ・地域人材の積極的な活用を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な教育活動の場面を見ていただく機会を、保護者の方だけでなく、丹後学園運営協議会の委員など、広く地域の方々へ呼びかけ、いただく機会を、地域の方々の積極的な参加や、学校だけでなく、地域の取組への積極的な参加や、学校だけでなく、地域への回覧・全戸配布や、学校ホームページを最大限活用して中学校の状況を伝えると同時、丹後保幼小中一貫教育を広く発信していく。 ・足を運びやすい地域に開かれた学校づくりに努める。そのためにも、地域学校協働本部等を有効に活用し、支援ボランティアの方々の支援を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> △学校や学園の行事や取組を広く案内するという計画は実施できなかつた。丹後学園運営協議会の委員や保護者に限った案内となることが多かつたが、可能な範囲での参観はいただいていた。学校での生徒の頑張りを励ましていただくような環境づくりに努めたが、感染症防止のため制限の中での参観となつた。 ○来校いただくだけではない分、学園HPや学園だよりなどの参観していただく予定であった行事内容の発信に努めることができた。 △学校支援ボランティアの方々に継続して行っていただけるよう、学校に足を運びやすい学園・学校づくりに努めたが、実施は不十分であつた。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育をベースとして、生徒のそれぞれの特性について理解を教職員間で共有し、一人ひとりの特性にあった支援を、全教育活動を通じて行う。 ・丹後学園や関係機関との連携を丁寧に行い、指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の課題に応じた指導・支援を、保幼小中の一貫性・連続性を大切にして行う。また、通常学級に在籍する特別に支援を必要とする生徒について、全教職員で課題共有を大切に、校内委員会などの組織的な適切な支援を実施する。 ・丹後学園内の連携や専門的見立てなどをもとに、校内研や研修会などの充実を図り、また、切れ目なく学ぶことができる教育を進め、適切な支援により生徒の力の伸長を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・教育支援計画に沿って、自立活動の視点を大切にしながら、的確な個々の課題をすべての教員が共有し、応じた指導や支援を行うことができた。参観や懇談など小中の接続を丁寧に行い、個々の生徒の良さを共有し、適切な支援につながる連携ができた。 △関係医療機関等との連携や、校内ケース会議の充実を図るなど、支援の充実のための環境づくりと指導の充実を更に進めていく。
次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症防止を最優先に行い、地域に開かれた学校づくりに進め、地域からの支援などが反映できるような仕組みを考えていく。 ・丹後学園の保幼小中一貫教育をさらに推進させ、学校改善の一つの手法として活かし、学習と部活動の両輪で、確かな学力と豊かな心の育成のためには生徒指導の三機能を生かした指導力の向上に努めるとともに、系統的な読む力の育成を重点研究テーマとして進めていく。 ・ICT機器を活用した教材開発や本年度より実施となった学習指導要領に基づく評価の研究を深める授業改善を進める。 		

令和3年度 学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立弥栄中学校]

学校経営方針(中期経営目標) 全教職員で、生徒・保護者との信頼関係を築く。 主体的に学び、たくましく心身を鍛え、人権尊重を基に人間性豊かな生徒を育て、教育課程の編成と実施に努める。 基礎的・基本的内容の指導の徹底と定着を図る授業づくりを進める。 知識技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育んでいく。 未来を拓くために主体的に進路選択ができる能力を育てる。	前年度の成果と課題 ICT機器の活用や、授業形態の工夫により意欲的に学習に取り組む生徒がふえた。また、繰り返し、自分の考えや思いを発信したり、学んだことを活用、応用する点で弱い部分が見られる。 二者面談の取り組みや、業間の意図的な生徒との関わり、組織的な生徒の実態把握と指導方針の共有により、全体的に落ち着いた学校生活がおくれたり、家庭環境や発達の問題から不安定になる生徒も見られるため、専門性に基づいた指導が必要である。	本年度学校経営の重点(短期経営目標) 1 教職員研修等、学校全体の指導力向上の取り組みを通じた人材育成 2 基礎基本の定着と、主体的・対話的で深い学びのための課題解決型学習の推進 3 特別支援教育の充実 4 学校の組織的指導力の向上
評価項目 教育課程 学習指導	重点目標 ・主体的、対話的で深い学びの実現を目指す授業づくり ・いじめ、不登校の未然防止のための信頼関係づくりと丁寧な対応 ・生徒指導の3機能を生かした実践の推進と自尊感情の醸成	具体的方策 ・ICT機器の積極的な活用 ・課題解決型学習の推進 ・学園授業研究会の実施と指導方法の改善 ・終SHRR時の延長学習、教え合い学習での基礎基本の定着 ・業間の関わりや二者面談等、生徒との信頼関係を構築するための活動の推進 ・定例のいじめ防止対策委員会、生徒指導部会、教育相談部会で実態把握と組織的な対応や指導の方針立て ・いじめアンケート等、各種アンケートによる実態把握、早期発見、早期対応 ・人間関係づくりや自己肯定感を高める取り組みの推進 ・ベテラン、中堅教員による学級経営や行事の取り組みに関する研修 ・SC、SSW、その他専門機関を活用した指導と教職員の研修
保幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基礎として	生徒指導	成果と課題 (自己評価) ○課題解決型学習に取り組みことで、他者の意見をふまえて、自分の思いや考えを発信することができた。 ○授業での電子黒板、タブレットの利用、オンラインでの集会等、ICT機器の活用が進んだ。 ○京丹後市や学園の授業研究会の取り組みで授業改善が進んだ。 ○教え合い学習の取り組みで、生徒同士、教師と生徒の学習を通しての信頼関係の深まりと基礎学力の高まりにつながった。 △学力の2極化が進む中、基礎学力定着の効果的な取り組みを継続的に行う必要がある。 ○生徒との関わりやアンケート等で実態把握、情報共有を行い、生徒指導、不登校等に対する早期対応や指導を行った。 ○ベテラン教員による学級経営の研修で、指導のポイントを共有し指導力の向上と人材育成につなげた。 △多様化する生徒、複雑化する教育課題に対して、さらに組織的な対応や、専門機関の活用を推進していく。

健康（体育）・安全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣の確立 ・ 部活動の充実 ・ 保健、安全教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動や保健指導による健康的な体力づくりと基本的な生活習慣の確立 ・ 薬物乱用防止教室、性に関する学習、感染症予防等の指導による自分を守るための自律的態度の育成 	<p>○ 情報モラル学習会は、生徒自身が自らの行動を振り返る機会となり、非常に効果的であった。</p> <p>△ コロナ禍の行動制限により、生活リズムの乱れや体力低下が懸念される。継続して自律的な態度の育成に努める。</p>
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援に関する専門的な知識と指導法の習得 ・ 特別支援コーディネーターによる推進体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家の指導助言や研修による、特別支援に関する理解と適切な指導法の習得 ・ 気になる生徒の状況を把握し、適切に対応するため、特別支援コーディネーターが、学年や分掌をつなぐ組織体制の推進 	<p>○ 気になる生徒の状況を定期的に交流し、一人ひとりにあった対応や指導について共通確認を行った。</p> <p>△ 適切な対応や指導のため、研修や実践を通して、教職員の更なる知識や指導力を高めなくてはならない。</p>
研修（資質向上の取組み）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修による指導力の向上 ・ 研修会への参加と伝達講習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決や指導力向上のための校内研修の実施 ・ 各種研修会への参加、専門機関との連携と本校教職員へのフィードバック 	<p>○ 教育課題に忠じて専門家を招いたり、校内の人材を活用したりして、知識と指導力を高める取組みを継続する。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業研究会や課題解決型学習の取組みの成果を今年度のもので終わらせないよう、今後も継続した授業改善の取組みを行う。 2 基礎学力の定着、適切な人間関係による自尊感情、自己肯定感を醸成する指導を授業や学校行事、部活動等あらゆる教育活動の中でバラスよく行う。 3 現代の生徒の思いや悩みを的確に受け止められるよう、研修と実践を行い指導力の向上と人材育成に努める。 		

令和3年度学校評価自己評価報告

学校名 [京丹後市立久美浜中学校]

<p>学校経営方針(中期経営目標)</p> <p><久美浜学園> 指導の重点: 学力向上</p> <p>(1) 基礎・基本の徹底</p> <p>(2) 主体的に学ぶ力の伸長 (授業づくり)</p> <p>(3) 家庭学習時間の確保</p> <p>◇指導體験の醸成を基盤とし、当たり前のことが当たり前にできる学校、「命」「今」「仲間」を大切にしている学校を目指す。</p> <p>◇久美浜学園保幼小中一貫教育の一層の推進により、指導観について共通理解を図り、系統的、組織的な教育実践を推進する。</p> <p>1 「主体的・対話的で深い学び」を追求した授業の充実による学力の向上</p> <p>2 好ましい人間関係の構築と自己肯定感・自己有用感の向上</p> <p>3 不登校の未然防止と不登校(傾向)生徒の改善</p> <p>4 「久美浜学園学校運営協議会」を核とする地域力と学校力を統合した、地域ぐるみの子育て支援体制の確立</p> <p>5 新型コロナウイルスと共存した新しい生活様式の確立と「新しい教育の創造」</p>	<p>前年度の成果と課題</p> <p>○校内行事の抜本的な再編成を断行し、教育活動相互の関連性と教育効果を優先した取組とした。「総合的な学習の時間」の発表は、生き方学習や丹後学、学級活動、合唱の取組などを、キャリア教育の視点で統合させた「キャリアフェスティバル」として開催し、地域の方にも講師で参加していただいた。</p> <p>○2年間にわたる授業づくりやICTに係る重点研究を、市教育フォーラムにおいて成果発表できた。</p> <p>○コロナ差別や中傷に関する人権教育を重点的に展開した。また、2学期には仲間を思いやったり、いじめを起さない学級づくりの取組を行ったりすることにより、生徒の意識が変容した。</p> <p>△不登校の未然防止や個別の指導を継続したが、固定化、長期化が改善されず、出現率が増加した。関係機関との連携強化を含めた、さらなる未然防止の取組が課題である。</p> <p>△感染防止に係る措置により、部活動や朝練習の停止、各種大会の中止など、年間通して制限された活動となった。また、学校公開等の機会も減少した。</p> <p>○学校運営協議会の初年度の活動や方針を、市教育フォーラムでの報告や学校行事への支援・参加により、学校内外に発信することができた。</p>	<p>本年度学校経営の重点(短期経営目標)</p> <p>1 保幼小中一貫教育の一層の推進 学園の教育目標に基づいた保幼小中一貫教育を一層推進することにより、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上や不登校の未然防止に努めるとともに、研究授業を含む全体研修や個別研修を充実させる。</p> <p>2 教職員の資質向上 教員の人材育成に重点を置き、各コディネーターがマネジメントし、各分掌を横断的に連結させることにより学校組織力を強化するとともに、日頃の実践や研修をとおして、個々の教師力の向上を図る。</p> <p>3 キャリア教育の充実 学校運営協議会を軸とした地域連携を強化し、学園内、地域、高等学校と密接に連携したキャリア教育を充実させることにより、総合的な学習の時間のみならず、丹後学、道徳、進路指導、人権教育、各教科等において、自分のふさがることや持続可能な社会、進路や将来について考えさせる機会を意図的・総合的に設定する。</p> <p>以上、1～3を教職員の協働により複層的且つ具体的に展開し充実させていくことにより、学校全体の肯定感の醸成や望ましい生活環境の整備を進めていく。</p>
<p>評価項目</p> <p>幼小中一貫教育の諸計画及び各学園の重点等を基盤として</p>	<p>重点目標</p> <p>◇根拠ある学力分析の上 に立った学力向上・授業づくり・ICT活用の取組</p> <p>(1) 全教員による「主体的に学ぶ力を伸ばすための、ICTを活用した授業づくり」の展開</p> <p>(2) 保幼小中一貫教育を軸とした中学校教育の展開</p>	<p>果と課題(自己評価)</p> <p>△全体的に学力は向上したが、教科や校種を越えた根拠がある学力分析と具体的手立ての立案、改善には課題が残った。</p> <p>○新中学校学習指導要領完全実施に伴う研修や説明を丁寧に行なった。</p> <p>○ICTを活用した授業実践が大きく前進し、授業研究会も盛んに行われた。</p>
	<p>具体的方策</p> <p>◇学習指導要領完全実施に伴う授業改善と評価研究</p> <p>◇久美浜学園教育課程会議を軸とした「各期における確かな学力の定着を目指した学力向上プログラムの構築」</p> <p>◇教的评价が可能な各学年の学力検査における学力向上を目指した方策づくり</p> <p>◇「CBT調査システム構築・活用実証研究」と各教科におけるタブレットを活用した各種テストの開発</p> <p>◇保幼小中一貫教育についての再学習と協働した展開</p> <p>◇小学校英語専科・文科省理科専科による小中一貫の視点での学力向上及び生徒指導の推進</p>	

生徒指導	<p>◇不登校・不適応傾向生徒に係る課題の解決に向けた取組</p> <p>(1) 「生徒指導の一体的展開」のための組織改編と強化</p> <p>(2) いじめの撲滅に向けた取組推進</p> <p>(3) 人権を尊重できる学校づくりの取組推進</p>	<p>◇生徒指導及び教育相談の機能を統合した、全教職員で不登校解消に取り組むための組織の再編成</p> <p>◇いじめ防止基本方針の理解の徹底と保護者への広報</p> <p>◇場面指導や聞き取りと、心に迫る組織的生徒指導との要素分離、生徒指導の三機能を踏まえた指導の展開</p> <p>◇同和問題や、ハラスメント、体罰、職場人権等、法令遵守に関わる事項や人権にかかわる研修の定期的開催</p> <p>◇生徒や教員の個人情報掲載や連絡網の配付などの廃止、新たな「文書規定・個人情報保護ガイドライン」の策定等、個人情報の保護を徹底する取組</p> <p>◇ジェンダーに係る慣行の見直しと制服等の見直し</p>	<p>○穏やかで落ち着いた学校生活を送ることのできる環境が整ったことにより、学習に主体的に取り組むことができた。</p> <p>△別室指導が充実し、改善傾向の生徒も増加した一方で、新たに1年生の新規不登校の欠席が増加し出現率は横ばいの状況のまま推移した。</p> <p>○効率的に方針立てするための組織改革を行うとともに、個別のケース会議をもつて対応にあたることのできる、関係機関との連携やカウンセラーの支援要請などを円滑に行えた。</p> <p>○ジェンダー平等やLGBTQに関する指導が充実できたとともに、スラックスの導入など新年度に向けた制服改定を進めることができた。</p>
健康(体育)・安全	<p>◇新型コロナウイルス感染症感染防止の取組徹底及び健康・安全教育の充実</p>	<p>◇緊急時対応訓練の実施(土砂災害、火災、不審者、地震)</p> <p>◇感染防止を含む健康安全に関する自主的な向上意識を高める指導とマニユアルの徹底</p> <p>◇健康・安全に関する教育の充実</p>	<p>○新型コロナウイルス感染症に係る感染防止の取組を教職員及び生徒が一体となり、タブレットによる毎日の健康観察や消毒作業などを日常的に徹底することができた。</p>
特別支援教育	<p>1 校内指導体制の機能化</p> <p>2 特別に支援を要する生徒に対する個別に応じた指導の充実</p>	<p>◇アセスメント票、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づく指導・支援の実施、自立活動に係る研修充実</p> <p>◇支援を要する生徒の把握、有効な手立ての蓄積</p> <p>◇担任並びに担当者と本人・保護者との丁寧な懇談</p> <p>◇通級指導の実施、保護者・教科担当・担任・関係諸機関との連携の強化</p>	<p>○コーディネーターが中心となり、諸計画書類等の整備や校内研修などを進めることができた。</p> <p>○よさのうみ支援センターの巡回相談の活用などにより、特別支援教育の視点を立った生徒指導や学校教育の見直しを図ることができた。</p>
開かれた学校づくり	<p>◇キャリア教育の横断的展開と地域連携の強化</p> <p>(1) 学校運営協議会を窓口とした校内教育活動の展開</p> <p>(2) 危機管理の徹底と正常な教育活動の維持</p> <p>◇「新・チーム久美中」の組織力を発揮するための改革の断行</p>	<p>◇学校運営協議会を校内の教育活動の依頼・選定窓口とした地域人材の積極的な活用</p> <p>◇市民・町民に開かれた学校を目指した久美浜学園としての活動・成果の積極的発信</p> <p>◇地元の高等学校を身近に感じることのできる久美浜学園が協働した合同プロジェクトの推進</p> <p>◇危機管理の徹底と、ウィズコロナにおける正常な教育活動の維持・継続</p> <p>◇働きやすい職場と保護者・市民の信託に応え信用される学校づくりの取組</p> <p>◇生徒指導や学習評価など教育活動全般における、説明責任を果たせる根拠ある指導の徹底</p>	<p>○久美浜学園の夏季全体研修会のテーマをコミュニケーション・スクールに置き、講義や学校運営協議会や地元高等学校からの課題提起を行うことにより、地域に溶け込んだ今後の学校教育の在り方について全教職員が学ぶ機会となった。</p> <p>△コロナ禍において長期にわたって活動制限が行われたため、学校公開や諸関係団体との連携会議を行うことができなかった。また、学校行事についても保護者や地域への公開が困難であった。</p>
次年度に向けた改善の方向性	<p>・「学びの保障」と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進</p> <p>・地域に貢献できる人材の育成を目指した「久美浜ならではの教育」と「開かれた教育課程」を進めるための戦略的カリキュラムマネジメントの推進</p> <p>・価値観の変化への対応と多様性へのさらなる寛容性を具現化するための教育活動の精選と新たな生徒指導及び教育相談の充実</p>		